

EGUIDE での調査研究

研究分担者	橋本 亮太	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 精神疾患病態研究部 部長
研究協力者	長谷川 尚美 三浦 健一郎 松本 純弥	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所

研究要旨

向精神薬は精神科・心療内科に限らず広く一般診療科においても処方される汎用薬である。しかしながら向精神薬の処方率が伸びるにつれて極端な多剤併用や乱用、薬物依存などの不適正処方事例が増加し、頻りにメディア報道されるなど社会問題化しており、患者の不安も高じている。向精神薬（抗不安薬、睡眠薬、抗うつ薬、抗精神病薬、精神刺激薬）の多剤併用、大量処方、漫然とした長期処方、乱用・依存などに関する臨床及び社会的な懸念が強まっている状況を鑑み、先行研究「向精神薬の処方実態の解明と適正処方を実践するための薬物療法ガイドラインに関する研究」（2017～2018年度厚生労働科学研究費補助金・障害者政策総合研究事業）において、ガイドライン作成に携わった精神医学、臨床薬学、エビデンス医学の専門家が中心となり、医療現場で頻用される6種の向精神薬である抗精神病薬、抗うつ薬、気分安定薬、睡眠薬、抗不安薬、ADHD治療薬の適正な使用と安全で安心な出口戦略に資する実践マニュアルを作成する。EGUIDEプロジェクトにおいては、精神科治療ガイドラインの講習を行い、その講習によって受講者の理解度の向上、ガイドラインの実践度の向上、そして処方行動の向上を検証している。本研究では、EGUIDEプロジェクトにおける理解度・実践度・処方行動の変化について検討することにより、この方法論を応用して本実践マニュアルの作成に寄与することを目的とする。2019年度は、10月から12月の間に、全国にて統合失調症薬物治療ガイドライン講習及びうつ病治療ガイドライン講習をそれぞれ11回行い、延べ421名が参加した。そして、講習前後の理解度データの収集、講習前後のガイドラインに基づいた治療の実践度調査データの収集、各医療機関における処方データの収集を行った。2016年度と2017年度の講習受講者443名のうち、有効データ344名分の理解度データの解析を行ったところ、たった1日の講習において、それぞれのガイドラインの推奨内容の理解度が顕著に向上した。この成果は、Psychiatry and Clinical Neurosciencesに掲載され、プレスリリースを行った。EGUIDEでは、このように知識をいかに誤解のないように正しく伝えるかということについてのノウハウを蓄積しており、その成果が本研究によって示された。今後、実践度や処方行動を検討することにより、その知識が臨床現場に普及することを示していく必要があり、その方法論を応用して本実践マニュアルの作成に貢献する予定である。

A. 研究目的

向精神薬は精神科・心療内科に限らず広く一般診療科においても処方される汎用薬である。しかしながら向精神薬の処方率が伸びるにつれて極端な多剤併用や乱用、薬物依存などの不適正処方事例が増加し、頻

りにメディア報道されるなど社会問題化しており、患者の不安も高じている。向精神薬（抗不安薬、睡眠薬、抗うつ薬、抗精神病薬、精神刺激薬）の多剤併用、大量処方、漫然とした長期処方、乱用・依存などに関する

る臨床及び社会的な懸念が強まっている状況を鑑み、本研究では、先行研究「向精神薬の処方実態の解明と適正処方を実践するための薬物療法ガイドラインに関する研究」(2017～2018年度厚生労働科学研究費補助金・障害者政策総合研究事業)において、ガイドライン作成に携わった精神医学、臨床薬学、エビデンス医学の専門家が中心となり、医療現場で頻用される6種の向精神薬である抗精神病薬、抗うつ薬、気分安定薬、睡眠薬、抗不安薬、ADHD治療薬の適正な使用と安全で安心な出口戦略に資する実践マニュアルを作成する。

EGUIDE プロジェクト(精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究: Effectiveness of Guideline for Dissemination and Education in psychiatric treatment)においては、精神科治療ガイドラインの講習を行い、その講習によって受講者の理解度の向上、ガイドラインの実践度の向上、そして処方行動の向上を検証することを目的としている。EGUIDE プロジェクトにおける理解度・実践度・処方行動の変化について検討することにより、この方法論を応用して本実践マニュアルの作成に寄与することを目的とする。

B. 研究方法

精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究(EGUIDE プロジェクト)は、2016年に開始し、44大学と180以上医療の医療機関が参加する国内外に例がない治療ガイドラインの効果を検証する研究である。EGUIDE プロジェクトは、統合失調症薬物治療ガイドラインとうつ病治療ガイドラインの講習を全国の精神科医を対象に行い(年間:計20回程度、受講者数200名程度)、その効果を、ガイドラインの理解度、実践度、処方行動によって、評価を行う。よって、講習前後のガイドラインの推奨内容に関する理解度データの収集、講習前後のガイドラインに基づいた治療の実践度調査データの収集、各医療機関における処方データの収集を行う。最終的な処方行動は、「統合失調症における退院時の抗精神病薬単剤治療率」などをQIとして設定している。

(倫理面への配慮)

本研究では「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の該当する研究倫理指針に従って、各分担研究者の所属機関にて倫理審査を受け、その承認を受けた上で研究を実施する。なお本研究は、患者を特定できる個人情報や付帯されない既存資料を中心に用いるが、その当該資料は各施設にて厳重に管理、保管するものとする。

C. 研究結果

2019年度は、10月から12月の間に、全国にて統合失調症薬物治療ガイドライン講習を11回、うつ病治療ガイドライン講習を11回行い、延べ421名が参加した。そして、講習前後の理解度データの収集、講習前後のガイドラインに基づいた治療の実践度調査データの収集、各医療機関における処方データの収集を行った。2016年度と2017年度の講習受講者443名のうち、有効データ344名分の理解度データの解析を行った。受講者は、平均年齢が33.8歳(標準偏差6.9年:26歳から62歳)であり、女性が26%、精神科医歴1年目から34年目までで平均の精神科医歴は5.1年(標準偏差6.1年)であった。統合失調症薬物治療ガイドライン講習においては、講習前の平均値が33.4点(標準偏差2.3点)であったが、講習後は平均値が36.3点(標準偏差0.9点)と有意に向上した(満点は37点)。うつ病治療ガイドライン講習においても、講習前の平均値が31.2点(標準偏差2.7点)であったが、講習後は平均値が34.6点(標準偏差1.7点)と有意に向上した(満点は37点)。統合失調症薬物治療ガイドラインでは、講習前及び講習後の理解度と精神科医歴に有意な相関は認められなかった。一方、うつ病治療ガイドラインにおいては弱い正の相関が認められ、精神科医歴が短い医師のほうが、理解度の変化量は大きかった。本研究成果は、Psychiatry and Clinical Neurosciencesに掲載され、プレスリリースを行った。

実践度データや処方データについては、解析中であり、次年度にその内容を報告する予定である。

D. 考察

EGUIDE 講習を開始してから4年が過ぎ、全国で1000人以上の精神科医が受講しており、特に若手の精神科医においては基本的な知識と考え方を身に着ける機会として定着してきている。EGUIDE 講習は、統合失調症薬物治療ガイドラインとうつ病治療ガイドラインで行っているが、たった一日受講するだけで、顕著に理解度が向上するという事は、忙しい精神科医にとっては非常によい教育ツールであると考えられる。また、統合失調症薬物治療ガイドラインでは、講習前及び講習後の理解度と精神科医歴に有意な相関は認められなかったため、ガイドラインに関する推奨内容は、若手精神科医にとってもベテラン精神科医にとっても新しい内容をこの講習で学んだということを示唆する。うつ病治療ガイドラインにおいては、うつ病治療ガイドラインにおいては弱い正の相関が認められたため、ベテラン精神科医のほうがもともと経験により知識を身に着けていることが示された。その一方で、精神科医歴が短い医師のほうが、理解度の変化量は大きかったということから、たった一日の講習でガイドラインの推奨内容という範囲内ではあるがベテラン精神科医に追いつけることを示しており、この講習の教育効果が高いことを示唆している。

EGUIDE では、知識をいかに誤解のないように正しく伝えるかということについてのノウハウを蓄積しており、その成果が本研究によって示されたが、今後、実践度や処方行動を検討することにより、その知識が臨床現場に普及することを示していく必要があると考えられる。

F. 研究発表

1. 論文発表 (*=corresponding author)

1) Takaesu Y, Watanabe K, Numata S, Iwata M, Kudo N, Oishi S, Takizawa T, Nemoto K, Yasuda Y, Tagata H, Tsuboi T, Tsujino N, Hashimoto N, Matsui Y, Hori H, Yamamori H, Sugiyama N, Suwa T, Kishimoto T, Hishimoto A, Usami M, Furihata R, Iwamoto K, Fujishiro H, Nakamura T, Mizuno K, Inagaki T, Katsumoto E, Tomita H, Ohi K, Muraoka H, Atake K, Iida H, Nagasawa T, Fujita J, Yamamura S, Onitsuka T, Murata A, Takayanagi Y, Noda H, Matsumura Y, Takezawa K, Iga J, Ichihashi K, Ogasawara K, Yamada H, Inada

K, *Hashimoto R. Improvement of psychiatrists' clinical knowledge of the treatment guidelines for schizophrenia and major depressive disorders using the "Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education in psychiatric treatment (EGUIDE)" project: a nationwide dissemination, education and evaluation study. *Psychiatry Clin Neurosci*, 73(10):642-648, 2019

- 2) Oya K, Sakuma K, Esumi S, Hashimoto Y, Hatano M, Matsuda Y, Matsui Y, Miyake N, Nomura I, Okuya M, Iwata N, Kato M, Hashimoto R, Mishima K, Watanabe N, Kishi T. Efficacy and safety of lithium and lamotrigine for the maintenance treatment of clinically stable patients with bipolar disorder: A systematic review and meta-analysis of double-blind, randomized, placebo-controlled trials with an enrichment design. *Neuropsychopharmacol Rep*. 39(3):241-246, 2019
- 3) Ohi K, Sumiyoshi C, Fujino H, Yasuda Y, Yamamori H, Fujimoto M, Sumiyoshi T, *Hashimoto R. A 1.5-year longitudinal study of social activity in patients with schizophrenia. *Front Psychiatry, section Schizophrenia*. 10:567, 2019
- 4) Morita K, Miura K, Fujimoto M, Yamamori H, Yasuda Y, Kudo N, Azechi H, Okada N, Koshiyama D, Shiino T, Fukunaga M, Watanabe Y, Ikeda M, Kasai K, Hashimoto R. Eye movement characteristics of schizophrenia and their association with cortical thickness. *Psychiatry Clin Neurosci*, 73(8): 508-509, 2019
- 5) Morita K, *Miura K, Fujimoto M, Yamamori H, Yasuda Y, Kudo N, Azechi H, Okada N, Koshiyama D, Ikeda M, Kasai K, *Hashimoto R. Eye movement abnormalities and their association with cognitive impairments in schizophrenia. *Schizophr Res*, 209:255-262, 2019
- 6) Ikeda M, Takahashi A, Kamatani Y, Momozawa Y, Saito T, Kondo K, Shimasaki A, Kawase K, Sakusabe T, Iwayama Y, Toyota T, Wakuda T, Kikuchi M, Kanahara N, Yamamori H, Yasuda Y, Watanabe Y, Hoya S, Aleksic B, Kushima I, Arai H, Takaki M, Hattori K, Kunugi H, Okahisa Y, Ohnuma T, Ozaki N, Someya T, Hashimoto R, Yoshikawa T, Kubo M, Iwata N. Genome-Wide Association Study Detected Novel Susceptibility Genes for Schizophrenia and Shared Trans-Populations/Diseases Genetic Effect. *Schizophr Bull*, 45(4):824-834, 2019

2. 学会発表

- 1) **橋本亮太**、統合失調症薬物治療ガイドラインを学び心理社会的介入に活かす、神奈川県作業療法士会研修会、1.11, 2020. 招待(講義)
- 2) **橋本亮太**、統合失調症の治療法の最近の動向とクロザピン治療、大精神・大阪弁護士会合同勉強会、大阪、11.28, 2019. 招待講演
- 3) **橋本亮太**、統合失調症の認知社会機能の測定法とその臨床応用、第39回静岡県東部精神科医会、三島、11.19, 2019. 招待講演
- 4) 小林真美、森脇久視、小澤篤嗣、稲田健、渡邊衛一郎、**橋本亮太**、F2群を対象とした当院の薬物療法についての現状評価 - 医療の質の観点から、第58回全国自治体病院学会、徳島、10.24-25(25), 2019 ポスター
- 5) **橋本亮太**、うつ病の治療～ガイドラインの普及・教育・検証～、第18回三重不安・抑うつ治療研究会、三重、10.17, 2019. 招待講演
- 6) 山田恒、本山美久仁、椎野智子、長谷川尚美、宇野洋太、渡邊衛一郎、稲田健、**橋本亮太**、松永寿人、統合失調症治療に対する治療ガイドライン教育プロジェクト(EGUIDE プロジェクト)の効果：報告1-過去2年の受講者のガイドラインに基づく治療行動実践度の変化からの考察-、第49回日本神経精神薬理学会年会、福岡、10.12-13(13), 2019. ポスター
- 7) 本山美久仁、山田恒、椎野智子、長谷川尚美、宇野洋太、稲田健、渡邊衛一郎、**橋本亮太**、松永寿人、統合失調症に対する治療ガイドライン教育プロジェクト(EGUIDE プロジェクト)の効果：報告2-過去2年の参加施設のガイドラインに基づく治療行動実践度の変化からの考察-、第49回日本神経精神薬理学会年会、福岡、10.12-13(13), 2019. ポスター
- 8) 長谷川尚美、宇野洋太、安田 由華、山本智也、渡邊衛一郎、稲田健、**橋本亮太**、統合失調症におけるクロザピン治療と抗精神病薬単剤治療の関連～EGUIDE プロジェクトの処方調査の結果から～、第49回日本神経精神薬理学会年会、福岡、10.12-13(12), 2019, 口頭
- 9) 長谷川尚美、宇野洋太、安田 由華、山本智也、渡邊衛一郎、稲田健、**橋本亮太**、統合失調症におけるクロザピン治療と医療の質(Quality Indicator)との関連～EGUIDE プロジェクトの処方調査の結果から～、第3回日本精神薬学会総会・学術集会、神戸、9.21-22(21), 2019. ポスター
- 10) **橋本亮太**、統合失調症薬物治療ガイドラインを使いこなすコツ、こころのフォーラム、茨城、9.6, 2019. 招待講演
- 11) 山田恒、本山美久仁、椎野智子、稲田健、渡邊衛一郎、**橋本亮太**、松永寿人、うつ病に対する治療ガイドライン教育プロジェクト(EGUIDE プロジェクト)の効果- ガイドラインに基づく治療行動達成度からの考察-、第16回日本うつ病学会総会、徳島、7.5-6(5), 2019 ポスター
- 12) **橋本亮太**、精神科治療ガイドラインの普及・教育・検証活動と精神疾患病態解明研究、精神医療セミナー(国立精神・神経医療研究センター)、小平、東京、6.25, 2019 (講演)
- 13) **橋本亮太**、稲田健、古郡規雄、中込和幸、統合失調症薬物治療ガイドライン、第115回日本精神神経学会学術総会、新潟、6.20-22(20,21), 2019. ポスター
- 14) **橋本亮太**、稲田健、渡邊衛一郎、EGUIDE プロジェクトメンバーズ、EGUIDE プロジェクト：精神科治療ガイドラインの普及・教育・検証活動、第115回日本精神神経学会学術総会、新潟、6.20-22(20,21), 2019. ポスター
- 15) 堀輝、安田由華、山本智也、稲田健、渡邊衛一郎、**橋本亮太**、吉村玲児、EGUIDE プロジェクト参加施設の大学病院は統合失調症の薬物治療で1年後の診療の質に変化があったのか、第115回日本精神神経学会学術総会、新潟、6.20-22(21), 2019. ポスター
- 16) 飯田仁志、伊賀淳一、越智紳一郎、安田由華、山本智也、稲田健、渡邊衛一郎、**橋本亮太**、川崎弘詔、精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究(EGUIDE プロジェクト)参加施設の診療の質の評価、第115回日本精神神経学会学術総会、新潟、6.20-22(21), 2019. 口演
- 17) **橋本亮太**、精神医療分野における治療の質を評価するQIとその向上をもたらす介入技法の開発と実用性の検証：プロジェクトの概要、日本医療研究開発機構障害者対策総合研究開発事業「精神医療分野における治療の質を評価するQIとその向上をもたらす介入技法の開発と実用性の検証」第一回研究班会議、東京、5.18, 2019 口演
- 18) 稲田健、**橋本亮太**、堀合研二郎、加藤玲、市橋香代、藤井哲也、よしみ佐藤、池田キユア、橋本直樹、当事者・家族・支援者と活用する統合失調症薬物治療ガイドの普及にむけて、シンポジウム「統合失調症薬物治療ガイド-患者さん・ご家族・支援者のために-」、第14回日本統合失調症学会、北海道、

4.19-20(20),2019 講演

- 19) 山田恒、本山美久仁、椎野智子、渡邊衡一郎、
稲田健、**橋本亮太**、松永寿人、統合失調症治療
に対する治療ガイドライン教育プロジェクト(EGUIDE プロジェクト)の効果 -過去2
年の受講者および参加施設のガイドライン
に基づく治療行動達成度の変化からの考察-、
第 14 回日本統合失調症学会、北海道、
4.19-20(20),2019. ポスター

3. その他

<ガイドライン・政策提言>

- 1) 公益財団法人 日本医療機能評価機構 EBM 医
療情報部 診療ガイドライン活用促進課 minds
診療ガイドラインの有効性評価に関する検討
会委員
【第1回 診療ガイドラインの有効性評価に関す
る検討会】2019年4月15日
【第2回 診療ガイドラインの有効性評価に関す
る検討会】2019年5月15日
【第3回 診療ガイドラインの有効性評価に関す
る検討会】2019年6月3日

<プレスリリース>

精神科治療ガイドラインの教育・普及・検証活
動により精神科医の治療ガイドラインへの理解
度が向上～精神科医への教育を行い、よりよい
医療の実践に大きく前進～(NCNP,杏林大学、東
京女子医大、日本神経精神薬理学会、日本うつ
病学会共同)令和元年8月22日(Psychiatry and
Clinical Neuroscience)